



第43回全国高等学校総合文化祭

4年連続出場・文化連盟賞受賞

令和元年7月27日(土)～29日(月)、第43回全国高等学校総合文化祭「さが総文2019」が、佐賀大学本庄キャンパスと市村記念体育館で開催されました。物理部は自然科学部門でポスター発表を行い、4年連続の上位入賞は達成できませんでしたが、文化連盟賞が授与されました。

☆ 文化連盟賞 ☆

研究テーマ「流体摩擦の低減効果に関する研究」

全国高等学校総合文化祭(総文祭)は、「文化部のインターハイ」ともいわれる高文連の公式大会で、ポスター発表には各都道府県の代表40校、全分野で192チームが参加して口頭発表・ポスター発表を行いました。

昨年度まで、「ひろしま総文2016」・「みやぎ総文2017」・「ながの総文2018」で、連続入賞していたため、全国大会出場の嬉しさと同時に、連続入賞に向けての責任と期待に対するプレッシャーを感じる発表会になりました。毎年、高校生の課題研究はレベルが高くなっており、全ての参加チームが研究の成果を熱心に発表していました。



【巡検研修】佐賀大学 海洋エネルギー研究センター

大会・第2日の2次審査の後は巡検研修が行われ、本校は、「佐賀大学海洋エネルギー研究センター」を訪問しました。この研究施設は、海洋温度差発電システム、波力発電システムを中心に、海洋の有する膨大な種々のエネルギーや物質の回収とその複合的高度利用等に関する共同利用・共同研究拠点となっています。大規模な実験施設や模型を使って丁寧に説明して頂き、興味がより一層高まりました。



最終日には、九州大学の森田浩介教授による記念講演会「新元素の探索」が開催されました。113番元素・Nh(ニホニウム)の発見について、多くの高校生が質問し、講演会は大変盛り上がりしました。

サイエンスインターハイ@SOJO 2019 準グランプリ受賞!!

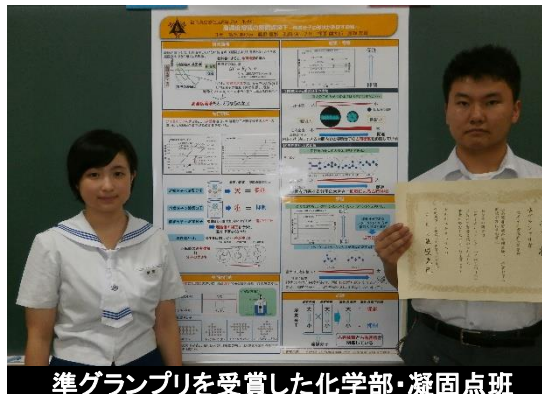
令和元年7月28日(日)、崇城大学池田キャンパスで開催された、「第10回サイエンスインターハイ@SOJO」に参加しました。この発表会は、社会科学などの文系分野も含む幅広い研究テーマで参加できるコンテストで、本年度は九州各県から26校(756名)、コンペティション部門22テーマ、ポスター発表部門121テーマが参加して、審査が行われました。



本校は論文審査によるコンペティション部門に2テーマ入賞し、当日のポスター発表審査でも化学部「高濃度溶液の凝固点降下-溶質分子の形状が及ぼす影響-」が準グランプリを受賞しました。

コンペティション部門選出テーマ

化学「高濃度溶液の凝固点降下」(準グランプリ)
 生物「和白干潟におけるコマツキガニの生態」



準グランプリを受賞した化学部・凝固点班

また、記念講演会では川合眞紀 東京大学名誉教授による「物質・材料の表面の構造とその機能」、田丸俊一 崇城大学教授による「未来を切り拓け! 分子を操る究極のモノづくり」の二つの講演会が行われました。どちらの講演も研究者としての興味・関心を究極に高めた真理の追究、研究の先に見える社会貢献など熱気ある講演でした。参加した高校生にとって自らの研究の在り方や進路決定について大いに参考になったようです。